

神道夢想流杖道 普及会だより

発行所 神道夢想流杖道普及会
発行人 大里 耕平
〒272-01 千葉県浦安市美浜一四
美浜エステート六―四〇五
編集人 萩原 嘉門
〒104 東京都中央区新富一―一四―九
印刷所 萩原印刷株式会社

昭和五十六年八月二十日
(第二号)

日本古武道の現況について



日本古武道振興会会長
小笠原流弓術宗家

小笠原清信

近年、日本古武道は国内は勿論、世界各国におきましても同好の士を得て、目覚しく発展致して参りましたことは、日本古武道にたづさわる者として誠に同慶にたえません。

顧みますと、当会は昭和十年二月古武道保存、振興を目的に財団法人として組織され以来、関係各位の御支援と御後援を得て、ここに創立以来四十六周年を迎えることができました。

この間には大東亜戦争のため、戦後一時中断したかにみえた時代もあり、決して満足すべき状態ではなかった事も事実です。近年武道の基盤として、古武道のおよぼす影響は極めて意義あるものとして考えられ、殊に人間形成の道として世人に理解され、また学校教育、職場教育等の一環としても注目をあびて参りました。ここに古武道振興会創立四十六周年を

記念して、去る七月五日、日本武道館、東京都教育委員会御後援により、全国日本古武道関係者が東京の東條会館に約三〇〇名が相集い、祖神の流祖祭並びに古武道振興に寢食を忘れて貢献されました数多くの物故者に対して慰霊祭を催し、謹んで感謝の誠を捧げ、盛会の裡に開催出来ましたことは、流祖の敬宗はもとより斯道発展の観点から極めて意義深いものでございました。

また古武道大会を始め明治神宮、伊勢神宮、熱田神宮等各神社等の奉納武道大会を中心し、数限りない多彩な諸活動を踏えて継承して参つたのであります。今後ますます一増の努力を致し、関係各位と共に日本のこの貴重な民族文化を守り、古武道の心を日本人の心に活かすべく、鋭意心血を捧げて参りたいと存じます。

アンカレッジ杖道大会



日航居合・杖道会長
藏脩館杖道会長

大川五郎

美しいアラスカ

まもなくアンカレッジにつくとのスチュワデスのアナウンスで、目をさまして外を眺めると、何年もの間見づけてきた光景が展開し、数々の過去のフライトの思い出がよみがえってきた。雄大な大地アラスカにそびえ立つマッキンレイ山の雄姿が左手に見える。

もう夜の十時三十分をすぎているのに強い西日がこの山を照らして強烈な印象を与える。この山は北米最高峰で富士山よりはるかに高い。先発六人組の鈴木、大里、椎屋、土橋、江沢の諸氏の横顔が夕日に映えている。成田を七月二日朝たつてきたのに、今七月一日夜である。これが国際日付変更線の魔術である。

主力組の到着した二日朝早速会場の下見を始めた。まず第二会場の市民公園から開始したが、横断幕の位置で頭を痛めた。午後は体育館に移って、調査から設営に入ったが管理人が耳が遠いので、すべて筆談で用をすませた。

二十四名も参加

日本航空アンカレッジ支店主催の杖道大会に全面的協力することになって、杖道会、居合道会の総勢二十四名が参加することになった。神之田師範の指導のもとに、二時間の演武種目を決め、鹿島の合宿では特別リハーサルの稽古を行なった。先生は七月五日の古武道流祖祭の行事に重要な役割をこなっていたので、かわりに大里、

勢二十四名が参加することになった。日本航空創立三〇周年を記念し、あわせて米国独立二〇五周年を祝うことになった。アラスカ州は春が夏であり、八月末には秋になって行く。七月は



参加者全員で記念撮影

最良の季節である。気温は日中十八度の快適さ、空気のすんだ、水のうまい自然の中、大地は広く、人は豊かで、釣りに行くのに水上飛行機を使う人々が多勢いる。加えて連休となつては、足止めをして、見にこらせることがむずかしい。いかに多くの観客を動員できるか、問題となる。

三日午後三時ホテルをバスで出発、最終設営とリハーサルを行なつて夕食をとる。現地の責任者の差し入れのおにぎりを頼張る。

支店長と私のスピーチに続いて、二時間のすきまのないプログラムの進行が、七時から九時まで整々とすすんだ。



アンカレッジ市民に“着杖”を教える

杖道体操のあと、観客の中から有志をあつめて杖道体操をやらせて、笑いを誘う。一息入れて、又始める。見る方と演武者が一体となる。これがハイライトだ。

神道夢想流の妙技

神道夢想流の基本、基本相対、制定形からすすみ、五月雨、五本の乱と続いて奥でしめる。その間にも附属武道の一角流十手術、神道流剣術、一心流鎖鎌術、短杖術ならびに夢想神伝流居合道が適度にくみあわされて、山あり谷あり、静と動とが一体の如く動く。実に美しい演武となつた。神之田師範苦心の演出であり、これを東京で

作成し、プログラム通りに実行できてうれしかった。数少ない女子会員の活躍が光る。賞讃の声が湧きあがる。

わが会の団結はかたく、一枚岩の強さが発揮された。感激したのは私一人だけではない。杖道をやつてよかつたと思つたことはたびたびあつたが、この日のうれしさは格別であつた。現地の会員も参加した。

翌四日の本番の舞台は町の中央にある市民公園へと移る。ホテルロビーに勢揃いした全員は稽古着姿にある者は刀を差し、ある者は木刀、杖をもって太鼓の音に押されて町の中央をねり歩いて会場に到着した。既に相当数の見学者が芝生に腰をおろして待つていてくれたのはうれしかった。

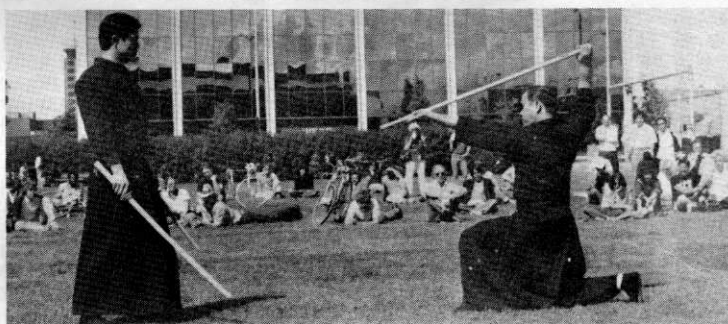
一本目着杖を教える

市長や日本領事もおいでになつた。澄みわたる青空の下で私どもに対して拍手がなりやまなかつた。この日は体操のほか、着杖一本を教えてよろこばれた。大喝采である。観客も満足、われらは劣らず満足感にひたつた。

その夜は支店のご苦勞パーティーと夕食に談はずみ、食欲旺盛、自己紹介に花を咲かせたが、青山会員、押本会員のお母さんが親身になつてお世話して下さいたのはうれしく心から感謝申し上げる次第です。

新聞でトップ記事

翌五日目をさましてビックリしたのは、五日の日曜版の部厚いアンカレッジタイムスの第一面トップに杖道がとりあげられたこと



ある。市主催の独立記念日パレードが第六面扱いになつていてのとくらべて、全く異例の扱いに驚くと同時に心底からうれしさがこみあげてきて止めることができなかつた。その反響の大きかつたことに思いをいたし、きてやつてよかつたとの満足感がくりかえしくりかえし、わが胸をうつつて幸福感にひたつたのである。全員の思いもすべて同じであり、この報告をうれしそうに聞いて下さつた神之田師範の顔も印象にのこつた。会社の首脳部も心から喜んで下さつた。日航に杖道会をつくつてよかつた。全王八幡の蔵脩館長比留間先生も心からよろこんで下さつた。多くの人が世話になつていて、私の心は今幸福の最高にあり、今後もずっともち続けたい。

第8回 全日本杖道大会開かる

東京が三部門で優勝

第八回全日本杖道大会(主催勸全日本剣道連盟)が七月二十六日(金)東京東鴨の菓鴨学園ギムナシオンに於いて、全国から猛暑を昌して二百余名の選手が参加して盛大に開催された。

大会は午前10時30分、初段以下の部一回戦から試合が開始された。試合は午前中に初段以下の部一回戦(準決勝と二段)五段の部一回戦(準決勝)が行なわれ、昼食後、午後一時三〇分より各段別の決勝が行なわれ、四時三十分盛會裡に大会を終了した。

優勝者は初段以下の部は佐藤篤範、草野知三良選手(東京)、二段の部は林 映子、矢野多衛子選手(神奈川)、三段の部は藤崎興郎、釣賀敏郎選手(東京)、四段の部は阿部 修、江沢義信選手(東京)、五段の部は中村達猪、岡本義一選手(福岡)。この結果、地域別では東京が三部門、福岡、神奈川が一部門の優勝となつた。

